

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	光明第七こども園
活動日時	2025.12.23
クラス(年齢)	幼児クラス(3~5歳児)
年間テーマ	自然

1. 活動テーマ

《テーマ》

「自分でつくった遊具で自然物を転がして遊ぼう」

《テーマの設定理由》

園では、子どもたちが自然の中で素材に触れながら主体的に遊びをを広げることを大切にしている。そこで、木材を使い、自分たちでかなづちやのこぎりを使って遊具を作る経験を通して、「作る楽しさ」と「自然物を使った遊び」を結びつけたいと考えた。森の中に設置することで、木の実や小石、葉など身近な自然物を使いながら、転がりの違いや音、速さなどに気づき、試したり工夫したりする姿を期待して活動を計画した。

2. 活動スケジュール

幼児クラスの主活動として

3. 探求活動の実践

《活動の内容》(活動のために準備した素材や道具、環境の設定)

みんなのもりにある自然物

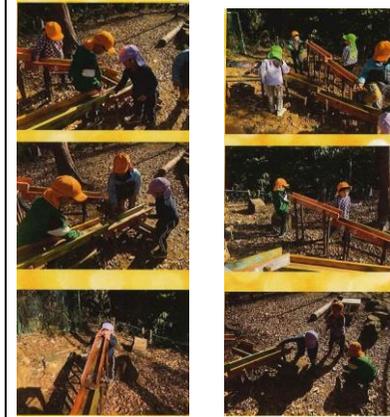
《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り》

子どもたちは保育者と一緒に木材を選び、のこぎりで長さを調整したり、かなづちで釘を打ったりして「コロコロ坂道」を作った。完成した坂道を園の森に運び、木に立てかけて設置すると、子どもたちは周りに落ちているどんぐりや木の実、小石などを集めて転がし始めた。

はじめは「どんぐりが一番速いかな」「小石はどうなるかな」と試しながら遊び、何度も転がすうちに「ここから入れると速いよ」「葉っぱだとゆっくりだね」など、素材の違いや転がり方に気づき始めた。また、坂道の角度を変えたり、途中に小枝を置いたりして「どうなるかな」と試す姿も見られた。

子どもたちは、自分たちで作った遊具ということもあり、繰り返し遊びながら様々な素材を試していた。

「見て！どんぐりすごく速い！」
「葉っぱはふわふわだから止まっちゃった」
など、気付いたことを友達と伝え合う姿が見られた。また、坂道の途中に小枝を置いて「ジャンプするかな？」と試すなど、遊びを工夫しながら発展させていた。



4. 振り返り

《振り返りにより得た保育者の気づき》

子どもたちは、遊具を用意されたものとして遊ぶのではなく、自分たちでかなづちやのこぎりを使って作ったことで、遊具への愛着を持ち、繰り返し遊び込む姿が見られた。完成した後も「ここをもう少し高くしたい」「ここから入れたらどうなるかな」と、自分たちの遊びに合わせて工夫しようとする姿があり、ものづくりの経験がその後の遊びにもつながっていると感じた。

また、森に設置したことで、木の実や小石、葉っぱなど、その場にある自然物を使って遊びを広げる姿が見られた。同じ坂道でも、転がす素材によって速さや音、動き方が違うことに子どもたちは気づき、「どんぐりは速い」「葉っぱは止まっちゃう」「小石はカタカタ音がする」など、自分の発見を言葉にしながらい友達と共有していた。こうした姿から、遊びの中で自然と試したり比べたりする探究的な姿が育っていると感じた。保育者としては、安全面に配慮しながらも、子どもたちが実際に工具を使って作る経験を大切にすることで、「自分たちで作ったものを使って遊ぶ」という達成感や主体性につながったと感じている。今後も、自然環境の中で身近な素材を活かしながら、子どもたちが自分で考え、試し、発見する遊びを大切にしていきたい。